えすぽわーる

3
2016
No.163
—SHINHAKODATE—

えすぽわーる新函館はＪＡ新はこだてとみなさんを結ぶコミュニケーション誌です

JA新はこだて
http://www.ja-shinhakodate.jp/

道南をたがやす農す

100年の伝統を息子に託す 次世代につなぐ牧場

農す ― 生きる力を体現した容姿、自然本来の鮮やかな彩り、四季折々で地域の景観であり続ける「農産物」と、それを生み出す「農業者」たちをシリーズで紹介していく。

「牛たちにも一頭一頭個性があって、好奇心が強かったり大人しかったりとさまざま」と純子さん。

【農産物】生乳

八雲町立岩
加藤 正幸さん(65)
純子さん(60)
正純さん(32)

〝八雲立つ　出雲八重垣　妻籠みに　八重垣つくる　その八重垣を〟

これは日本神話でスサノオが詠んだ和歌だ。八雲町の名はこれに因んで、豊かな土地にとの願いから尾張徳川家の徳川慶勝公が名付けた。徳川家の支援のもと明治期に始まった酪農は大正～昭和初期に急拡大し、八雲町の代名詞として受け継がれている。

今回取材させていただいた加藤牧場も、そんな歴史ある酪農業を守る農家の1軒。明治31年に入植して以来、代々酪農を続けている。

現在、加藤牧場では搾乳牛30頭と育成仔牛29頭を飼養している。規模拡大を図る酪農家が多い中、長年この規模を維持してきた。モットーは「時代に流されない農業」。正幸さんは「我が家の土地面積ではこれくらいが適正規模」と話す。「夏場は放牧するなど自然な状態で飼うことで、丈夫な胃袋ができて足腰も強くなり、長く働いてくれる」と秘訣を教えてくれた。それによって、販売に回せる初妊牛を確保するのだという。販売環境が厳しくなる中、貴重な収入源になっている。

息子の正純さんが後継者として就農したのは25歳のころ。「努力次第で充実した時間が持てる」と酪農の面白さを再認識してUターンした。以来6年間、酪農にまい進する毎日だ。4Hクラブに所属し、正純さんを中心にプロジェクトに取り組んだことも。「スモールファーマー」をテーマに牧草地の収量について調べ上げた。その結果、草地更新の

①餌やりは正幸さんの仕事。食欲旺盛な牛たちは、コーンサイレージ、ビートパルプなどを次々と平らげる。②仔牛の世話は純子さんが務める。細い脚に小柄な体だが、こちらも食欲旺盛だ。 ③寝わらの管理は正純さんが主に担当する。寝床をふかふかにするために毎日数十キロを運んでいる。 ④手際よく搾乳機を装着する正幸さん。朝夕の2回、毎日休みなく搾乳を行う。

必要性を明らかにし、収量アップを実現した。
作業は親子3人で分担する。機械化されていない作業では体力を使う場面もしばしば。それでも「これがうちのやり方だから」と笑顔の正純さん。マジメに、堅実に、そして楽しく働くのが加藤牧場流だ。

えすぽわーる

NO.163／2016年3月号

CONTENTS

2 道南を農す

4 特集 寒い中でも盛り上がれ！冬をアツく彩るイベント

6 協同の力

7 新婚さんハッピートーク ～ゴール&スタート～

8 トピックス
青年部ポリシーブック全国大会 他

10 Focus the JOB ～JAの仕事を紹介します～

11 あぐりレッスン

12 組合員懇談会要約

16 地産地食図鑑

国道５号線沿い、八雲町東野に立っているこの看板。実は、９月号でご紹介した看板の裏面なんです。こちらは函館方面から来た人たちに、もち米団地をアピールしています。イネの葉の鮮やかな緑がまぶしいですね。

特集

寒い中でも盛り上がれ！
冬をアツく彩るイベント

雪が積もって農閑期になる組合員も多い冬のこの時期。組合員が積極的にイベントに参加して地域を盛り上げています。今月の特集では、各地で開かれた冬のイベントをご紹介します。

2016年 鍋まつり

あぐりへい屋

１杯１００円という格安価格で人気の「鍋まつり」が、今年も行われました。週替わりでアツアツの鍋を提供するイベントです。毎年この冬の時期に恒例で、楽しみにしているお客さんも多いです。

今年はごっこ鍋や三平鍋、カキニラ鍋といったラインナップのほか、「牛肉鍋」が新登場しました。大きく切った食べ応えのある野菜が具だくさんでボリューム満点。ＪＡらしい一椀に仕上がりました。野菜はもちろん管内産で、厚沢部産の馬鈴薯、北斗産の長ねぎ、知内産のニラなど各地のものを使用しました。

たくさんのお客さんに来ていただき、道南各地の味覚を楽しんでいただきました。

第12回JA女性部ふれあいフェスティバル

木古内支店女性部

テーブルに並べられた総勢１７６品もの料理や手芸品たち。女性部員が腕によりをかけたオリジナルの品々が披露されました。農作物の有効活用や部員の交流が目的で、会場では部員同士で会話に花を咲かせていました。

オープンしたばかりのレストラン「どうなんde’s Ocuda Spirits」の小泉達也シェフら20名を招いて審査も行われました。小泉シェフによる「最優秀どうなんde’s賞」には、木古内フレッシュミズの「羽衣大根」が選ばれました。

森永尚美部長は「部員みんなが工夫を凝らした努力の結晶が集まった。この中から木古内町の顔となる一品が生まれていってほしい」と笑顔でした。

地域のイベントにも参加!

第9回かみのくに食遊祭

南檜山

地場産の食材を使った多彩な料理を味わえるイベントです。今年は町内外から19店舗が出店。来場者は各ブースを巡りながら冬の味覚を堪能していました。

上ノ国支店女性部はおしるこのブースを出店。部員１０名が早朝から、２つの大なべで１５０名分のおしるこを用意しました。会場では数少ない甘味ということで人気を集めていました。

田畑悦子部長は「毎年、楽しみにしてくれる人たちがいるのはうれしいです」と話します。

第16回冬江差“美味百彩”なべまつり

南檜山

オリジナルの鍋を格安で提供するこのイベント。スープカレーからくじら汁まで、幅広い鍋が並びました。

江差支店女性部を母体とする「水土里の会」は、伝統のお菓子「こうれん」を使った「こうれん鍋」を提供しました。野菜をふんだんに使った汁に、油で揚げたこうれんを乗せた香ばしい一椀。１００杯分を用意し、人気は上々でした。

長尾和子会長は「町の名物行事なので、会を挙げて協力しています」と話しました。

第18回しりうち味な合戦冬の陣 カキVSニラまつり

知内

旬の味覚を味わう「第１８回しりうち味な合戦冬の陣　カキＶＳニラまつり」は、１万人近い人出で賑わいました。知内町ニラ生産組合はニラを１０束９００円（１束１００グラム）などの安値で販売。長い行列ができ、用意した段ボール５００箱がみるみる数を減らしました。創作料理・特産品販売コーナーでは、知内支店女性部がべこ餅や手作りみその販売、ニラしゃぶの無料試食を行いました。

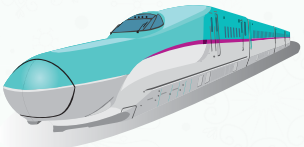
家族で訪れた来場客は「知内ならではの冬の味覚に満足。買ったニラは鍋料理で食べたい」と笑顔でした。

予　告

新函館北斗駅開業記念 北斗おもてなし祭

いよいよ北海道新幹線開業が間近に迫っています！

あぐりへい屋では、開業イベント「北斗おもてなし祭」にブースを出します。会場に来て、道南の一大イベントを一緒に盛り上げませんか？



日時：3月２６日(土)～３１日(木)１０:００～１６:００
会場：新函館北斗駅 西側公園

4町グルメキャラバン

若松・北渡島

渡島・桧山北部４町の特産物を集めたイベントが開かれました。特産料理の無料試食をはじめ、様々なグルメや催しで盛り上がりました。

勇壮な掛け声が上がったのは、青年部落部支部の「もちつき囃子」。お揃いの赤い法被を着て餅つきを披露しました。できた餅は来場客に味わってもらいました。

また、せたな町を代表して若松ポークマンの串焼きとフライドポテトを無料試食。食べた方は「味が濃くて脂のうま味が絶品です」と絶賛していました。

第29回八雲さむいべや祭り

北渡島

氷の滑り台や雪中駅伝を目当てに多くの町民が訪れる、八雲の冬には欠かせないイベントです。今年はミニ列車「Ｈ５系ミニ新幹線 はやぶさ」も走り、子供たちも大喜びでした。

会場では青年部落部支部が「もちつき囃子」を披露。子供たちによる餅つき体験も行われ、一生懸命に杵を振る姿に会場は笑顔。終わりには「風の子もち」のおにぎり３００人分が配られましたが、３０分ほどで底をつく人気ぶりに青年部員も驚いていました。

協同の力

1人ひとりの力を合わせ、大きな力に。〝協同の力〟で地域農業をけん引する組織を紹介していく。

販売単価向上に向けさらなる努力を

果菜生産部会（森支店）

設立1979年、会員　17人

●メロン栽培の経過等について教えて下さい。

黒田部会長　当初、メロンは露地栽培のみでした。その後、ハウス栽培を始めた時に導入したのが、今でも生産している「ルピア」という品種です。

年数が経つにつれて消費動向も変わっています。以前は北海道では赤肉しか売れないという話もありましたが、他産地での生産量が減ってきたこともあり、青肉の需要も増えてきました。

最近では、高齢化・後継者不足で、手間の掛かるメロンの栽培は減ってきています。

●品質や技術向上のために取り組んでいることは何ですか？

黒田部会長　実の厚さやネットの仕上がり対策のために試験栽培に取り組んでいます。平成25年から話を進め、平成26～27年にかけてハウス・露地での試験栽培をしました。露地栽培ではもう少し品種の検討が必要だと感じています。ハウス栽培は品種を「レノン」「ティアラ」に絞って、さらに詰めていきたいです。

さらに、品種によって出荷する時期をズラし、森地区内でのリレー出荷体制ができたら良いと考えています。

小森副部会長　種苗会社を呼んで栽培技術講習会を開いています。研修に参加できない部会員には、資料を配布して技術が浸透するようにしています。

その他、平成18年には他産地に行き、当時、森地区でまだ取り組んでいなかった重量選別について勉強してきました。戻ってからすぐに導入して玉揃えを改善し、品質を向上できました。

●今後の課題や目標をお聞かせ下さい。

小森副部会長　年々、生産農家も減ってきていて、作付面積と出荷量の維持が課題です。メロンは手間が掛かるので、新たに始めるにはハードルが高い作物です。新規作付者を増やすには、「手間を掛けた分、最後に自分の手元に残る収益が多い」というのが必要不可欠な要素だと思っています。そのようなメリットを打ち出せるよう、さらなる努力をしていきたいと思います。

黒田部会長　販売単価を上げ、収益を上げるのが今後の目標です。そのために、自分達の品物の質を良くし、これだけの単価が欲しいといった交渉を市場としていけるようになりたいです。さらには、品種の作り分けによるリレー出荷により、安定価格で販売できるようにしたいです。

また、「さぶりメロン」についても、安定した数量の確保に向けた体制づくりに取り組みたいです。

〈取材　森支店　増田　清也〉

新婚さん！ ハッピートーク ゴール&スタート vol.11

結婚というゴールを迎え、新たな人生をスタートさせた二人の出会いから交際、結婚にいたるまでの経過を紹介していく

知内町　森越
吉田　知也さん（31歳）
初美さん（31歳）

【写真上】トマトの収穫作業をする知也さんと初美さん。「二人でキャンプにも行きたいです」と初美さん
【写真左】知也さん、初美さん、トマトのハウス前にて。

共通の趣味から意気投合

●二人の出会い…

吉田知也（ともや）さんと初美（はつみ）さんは去年の11月22日、「いい夫婦の日」に入籍した。

2人の出会いは、共通の知り合いのお店。そこのお店の人にお互いを紹介されたのがはじまりだった。初めて顔を合わせた時の印象について、知也さんは「しっかりしていて話しやすい」、初美さんは「優しい雰囲気だった」と語る。共通の趣味のスノーボードの話で盛り上がり、すぐに意気投合。その後、知也さんから積極的にアプローチをして、告白。交際がスタートした。

●交際期間中…

約1年半の交際期間中に2人がそれぞれ印象に残っている思い出を、知也さんは「京都や大阪などへの旅行」、初美さんは「仙台に牛タンを食べに行ったこと」と話す。

知也さんは付き合い始めた時から結婚を意識していたという。結婚が決まった時の気持ちを、初美さんは「嬉しかったけど、農業は自分にとって全然知らない世界なので大丈夫かなという不安もあった」と振り返る。

●これから…

現在、知也さんは米・トマト・みつばなどを作付。「生産コスト削減に取り組んで、増収を目指したい」と意気込む。さらに、今年からは知内町４Ｈクラブの会長になり、組織活動にも意欲を見せている。

初美さんは「今までは手伝う程度だったので、何とか作業にもついていけていた。これからは一緒に仕事をしていきながら、焦らず、徐々に作業に慣れていって、知也さんを支えていきたい」と話す。

最後に、2人へ「今後、2人で楽しみたいことはありますか？」と訊くと、「冬場には一緒にスノーボードを楽しみたい」と笑顔で答えてくれました。

〈取材　知内支店　尾辻　凌〉

3年連続でポリシーブック優良事例に
JA全国青年大会で発表

髙橋陽一部長（中央）、木村卓也副部長（左）、冨樫孝部員（右）

ポリシーブックについて語る髙橋部長

２月１６日～１７日、第６２回ＪＡ全国青年大会が開かれた。全国から２千名の青年部盟友が集まり、今後の青年部活動などについて活発に議論された。

初日には年間の活動報告や新会長の立候補が行われた。また、「ＪＡ青年の主張」や「活動実績発表」の全国大会が開かれ、各地の盟友が思いを披露した。

２日目に行われた「ポリシーブック発表大会」では、当ＪＡ青年部が３年連続で全国優良事例に選出。髙橋陽一部長が事例発表・パネルディスカッションに参加した。髙橋部長は「はじめは簡単でいいので、全部員が確実に取り組める内容にするのが良い。実際に行動に移し、しっかりと検証することが大事」と語り、聴衆の感心を集めた。

その後、道南青協として、農林水産省と「産地パワーアップ事業」などについて意見交換。さらに、前田一男衆議院議員への表敬訪問を行った。

組織を超えて交流会を開催
農協・漁協・商工会青年部と町職員

◀和やかに意見交換する青年部員ら

八雲町商業活性化施設「はぴあ八雲」で２月２０日、同町の農協・漁協・商工会青年部と町職員合わせて約６０名が集まり、部員間交流会が開催された。

３団体と町での交流会は初の試み。婚活イベントの主催など各種行事で連携することも多いため、部員間の絆を強くして親睦と理解を深めることが目的。

交流会では、各団体の部長が今年の事業計画やこれまでの取り組み、今後の目標などを報告。その後、各テーブルで部員同士の意見交換を行った。

北渡島地区青年部の北村卓馬部長は「青年部同士の絆を深めることができてよかった。今後イベントを実施する際には、団結して頑張りたい」と話した。

九州の産地情勢について意見交換
北渡地区担い手養成講座で視察研修

◀トルコギキョウを前に、熱心に意見交換する参加者ら

北渡地区農業担い手養成講座では、１月２２日～２４日にかけて、九州を訪れ国内視察研修を行った。

本視察は、同講座の２ヶ年計画の最終年を飾る重要な行事。同講座での九州への視察は初めてだったが、参加した受講生は積極的に意見交換をしていた。

農産科部門では５名が参加し、福岡大同青果株式会社・住化農業資材株式会社の２社を視察。九州管内の野菜全般の販売情勢を中心に意見交換した。

参加者は「九州方面へ視察することはあまりないので、販売情勢や流通などを学ぶことができて良かった。今後、ＰＲ活動等でも、可能であれば九州方面を訪れて実施していきたい」と意気込んだ。

節目の年をにぎやかに祝う
大野・上磯支店女性部が総会

先代部長の岡村節子さん（左）を表彰する現山上千鶴子部長（右）

熱心に話し合う上磯女性部員ら

１月２８日、上磯女性部は第５８回通常総会を開いた。部員約２０名とＪＡ職員が出席し、昨年度の事業報告や今後の活動について協議された。
総会終了後には、女性部の意向でヨガ体験を行った。足元や首元、背筋を伸ばすなどの柔軟を行い、日頃の疲れを癒していた。
２月５日には大野女性部の通常総会を開き、昨年度事業報告や今後の事業を話し合った。
総会の後には「設立６０周年記念祝賀会」を開催。部員約１５名のほか、ＪＡ役職員や高谷寿峰北斗市長が出席し、記念の年を盛大に祝った。
祝賀会では、歴代部長やＪＡ事務方職員への感謝状贈呈や記念ＤＶＤの上映など、６０年を振り返る催しが行われた。過去の写真が写しだされると、部員は懐かしそうに眺めていた。ビンゴ大会なども行われ出席者は大いに盛り上がった。

地域に愛される産直市へ
もぎたて市部会全体会議

◀柳山技師の発表を真剣に聴講

ホクレンショップで産直市を運営する「もぎたて市部会」は２月４日、ホテル法華クラブで全体会議を開いた。北斗市・七飯町・函館市の組合員２０名、ホクレンショップ職員、ＪＡ担当者が集まった。
会議では、２７年度の活動や取扱実績、消費者アンケートの結果が報告された。アンケート結果では、野菜の「鮮度」や「価格」について利用者の評価が高いことが示された。また、２８年度の計画やホクレンショップからの販売提案が協議された。
その後、ホクレンの野菜果実花き課の柳山浩之特任技師が野菜の新品種を紹介。幅広い作物の試験結果が紹介され、参加者は興味深く聴講していた。

豚肉のおいしさや楽しさを地域に
若松ポークマン直売所オープン

◀ソーセージを手にとる来店客

㈲高橋畜産は２月６日、せたな町の牧場横に「若松ポークマン」の直売所をオープンした。初日は用意した品物がすべて売り切れる盛況となった。
販売するのはいずれも、自家生産豚を農協に出荷して精肉にしたもの。肩ロース、バラ肉などの精肉をはじめ、ソーセージやフランクフルトといった加工品、ひき肉を使ったタコライスなども並ぶ。
高橋洋平代表は「最近は自宅で腸詰や燻製をする人も増えています。食べるだけでなく、豚肉に触れる・加工する楽しさも発信できる店にしたいです。地元の方々に若松ポークマンを食べようと思ってもらえれば最高ですね」と意気込んだ。

Focus the JOB ～JAの仕事を紹介します～

今回は内部監査室・企画室。

広報の写真撮影をしている様子

内部監査室がある事務所

業務の改善・サポートに努めます

内部監査室は北斗市本町の大野支店金融店舗に隣接した事務所2階にあり、企画室は本店事務所2階にあります。

内部監査室は、各部署・支店での業務がルールに基づいて行われているか確認する業務を行っています。JAの各業務について状況を見ながら課題・問題などについて相談し、改善に繋がるよう業務にあたっています。

企画室では、広報誌「えすぽわーる」の発行や一般消費者向けコミュニティ誌「しんはこ農K−now」の発行、ホームページ運用などの広報活動のほか、各支店の遊休資産等の処分整理のサポート、事業計画・第5次中期計画策定に向けた業務などを行っています。広報誌については、皆様に関心を持って頂ける誌面づくりを心掛けています。

これからも、農協経営の健全性向上及び信頼性の確保、組合員や地域住民等への広報活動の充実に向けて、内部監査室・企画室一同頑張ってまいります。

【連絡先】 北斗市本町１丁目１番21号
TEL：0138-77-5555（企画室）
FAX：0138-77-5566
TEL：0138-77-5551（内部監査室）
FAX：0138-77-5564

～第28回JA北海道大会 パネルディスカッション②～

ＪＡ北海道大会で開催したパネルディスカッションでパネリストの皆さんから提言頂きました「北海道農業とＪＡグループに期待すること」をシリーズで紹介します。

所得増につながるより強固なプラットフォームへ
平成30年にむけて激論を

株式会社セイコーマート社長 丸谷 智保 氏

第２回は、丸谷智保氏の提言を紹介します。

丸谷 智保 氏
（まるたに ともやす）
株式会社セイコーマート社長

それから、例えば、簡素な、効果的な流通機構という点については、歩留りを上げるため非正規品、ハネものが流通する市場をつくる。常に苦労する歩留まり向上にどれだけ繋がるマーケットを創造できるか。

流通機構、構造を簡素化して中間マージンの排除

セイコーマートグループ全体で農業法人として１０８ｈａを耕作しているが、農業における流通機構、構造をより簡素化して、中間マージンを排除し、農業所得に振り向けることが重要だと思う。

そのためのより強固なプラットフォーム（基盤）として、農協あるいは中央会の必要性はより強まっている。

海上輸送の効率化

我々も物流には苦労している。遠い農村から市場の都市あるいは首都圏へ物流するコストは非常に大きい。北海道は、どうしても海上輸送が必要になるが、これを効率化する。

そういう意味でも組織の意味は強い。効率化を進めることで、所得を増加させ、配分を変えていく。

また、プラットフォームである農協が商品の価格を評価し、即買い取り、即支払う仕組みを作ってはどうか。資金繰りの向上につながる。

その他に、農繁期の人材の確保、販路拡大。これらは今でもやっているが、より強固にしていく。

そして安定供給、物流面での大胆な提言、これは政府に対してもやっていく。こういったことをすべき組織としてより強いものを作っていったらどうか。

戦から外交戦略へ

平成30年に向けて激論をし、結論を出してほしい。もうその時期に入っている。これから平成30年の大会に向けて、守るとか防衛するという戦をするのではなく、外交戦略・外交交渉をすべきではないか。

戦と外交の違いは、戦は勝つべき戦だが負けるかもしれない。外交は１００％はとれないが、最低限守るべきものは守る、あるいは主張すべきものは主張してとる、ということ。

そういったことを踏まえた真摯な議論・激論、そして結論を出すことをご提言申し上げたい。

今回、所得増の具体的な数値目標を掲げたのは素晴らしい。議論を尽して、２つでも３つでも具体論に結び付ける。やって、だめだったらまたやる。

物流を見直す、法律化する、政府から引き出す。例えば、農産物を運ぶのに高速道路を使えばタダにする。フェリー代を安くすれば、競争力のある農産物をもっと本州に出せるかもしれない。所得の分配に結び付く具体的な議論をして一致団結してぶつける外交交渉に入っていくべきではないか。

最後に一言

セイコーマートでは、ほとんど北海道の原材料、農産物を使っており、大地の恩恵をものすごく受けていると感じる。北海道は特別な地域だが、中央では、ひとくくりで見られている。５５０万人のサポーターを味方につけて、北海道から日本全国の農業の重要さを、ぜひ組織力を発揮して発信して頂きたい。

組合員懇談会
開催結果報告（要約版）

◆開催期間：平成27年12月1日（火）～12月4日（金）
◆開催状況：12地区・8会場で開催
◆出席状況：対象者数2,386人、出席者数191、
出席率8.0%

※ 要約版でありますことを予めご了承願います。

◇…JAからの回答

【総務部関係】

1．女性役員の登用は、北海道では難しい問題だと思う。どの様に取り進めるのか。

◇ 次期役員改選での登用に向けて、これまでは、理事会で「女性農業者のJA運営参画促進運動方針」を制定し、女性部との意見交換会を実施してきました。これからは、女性農業者の正組合員加入促進を図り、女性組織代表等に限定することなく、広く総代・役員への就任を求めて参ります。
なお、他のJAでは「参与」という形で農協運営に参画している事例もありますので、今年度設置します役員定数等検討委員会で、登用実現に向けた取り組みを検討して参ります。

2．経営委議をする際に、後継者が自ら出資する場合は、自分の出資金は払い戻されるのか。

◇ 当組合の定款では、組合員が脱退した場合、払い戻すことになっています。

【信用共済部関係】

1．組勘貸越担保の対応について

◇ 組勘貸越担保には保証人、根抵当、貯金共済担保等がありますが、今後はできうる限り個人資産への根抵当での運用で進めて参ります。

2．賃借入において保証書と同時に確認書も求められるが、趣旨の説明を徹底すべきではないか。

◇ 確認書はJA系統の全国統一の事務手続きなので、説明不足のないよう努めて参ります。

3．自動車共済の車両レッカーサービス等は極力素早い対応ができる体制を構築願いたい。

◇ 最寄りの契約レッカー会社に対応を依頼しておりますが、今後ともスムーズな対応となるよう努めて参ります。

【農業振興部関係】

1．組合員意向調査のデータについて、支店でもデータがわかるように開示して頂きたい。

◇ 地区のデータは開示しますので活用願います。

2．ハウスリース事業は全地区一括で入札していると思いますが、良質な製品で納入して頂きたいので、銘柄を指定し知内仕様で入札して頂きたい。

◇ 事業は直接仕入れのため、資材課から供給出来なく、業者が仕様書の基準をクリアした製品を提示する事になります。このため製品の指定は出来ませんが、知内地区の仕様で入札する事は可能です。
また、本年度の入札は各地区の仕様で実施しております。

3．労働力不足対策への外国人雇用について、情報があれば頂きたい。

◇ 七飯地区において、今年、中国人の雇用があり、4月から11月までの7ヶ月間でありました。今後、情報がある都度お知らせしていきたいと思いますし、当JAとしても労働力不足の点については検討して参ります。

4．農家の人手不足が深刻化しているので、JAでも雇用者の確保を手伝ってもらいたい。

◇ 短期雇用者の確保が厳しい状況ですが、海外からの研修生（カンボジア）を扱う業者に依頼することも検討中です。

5．経営規模の大きな畜産農家では、エサの購入や販売について複数の業者を利用し、コストの削減や有利販売を行っている。系統全利用を奨励しているが、メリットが薄くなっている。系統全利用をしている生産者にメリットが出るようホクレンに要請して頂きたい。

◇　要請して参ります。

6．牧場での事故対応について、牛の体調が悪いと気づいたら早めの対応をして頂きたい。繁殖牛の場合、淘汰したら、その後の生産に大きな影響を与えるため。

◇　今後、生産者とも十分連絡を密にし、進めて参ります。また、牧野運営委員会でも協議を進めて参ります。

7．あか牛生産組合では、地域一貫生産に取組んでいるが、一部地域では市場流通が高値で推移していることから、市場出荷を行い、生産組合の地域の取組みに参加しないとは如何なものか。

◇　素牛設定価格と市場価格に乖離が生じ、そのような状況に至っておりますが、何とか協力を頂きながら取り進めているところであります。

8．役員は道南農業を守るためＴＰＰによる影響力をどのように考えているのか。

◇　ＴＰＰについては内容も定まらない状況で、急ぎ過ぎであり、キッチリと国内の対策を検討し進めるべきと要請しています。北海道内での産地間競争になることが懸念されます。系統では農林中金のアグリシードリース事業や、ホクレンは原価算入で組合員へ還元をしたいとの話も出ており組合員への対応について情報が入りつつある状況です。

〈以下、要望〉

9．施設設備に対する支援拡充がありますが、既存施設の更新や暗渠排水対策について要望します。

10．経営が厳しい農家に対しては長期的な営農指導を実施して１戸でも農家が無くならないように取組んで頂きたい。

11．離農が進んでいる状況であることから、新規就農者・ヘルパー組織（給与＋奨学金等を支援してヘルパー組織に加入後、地元で新規就農できるような仕組み）に対しＪＡも支援しながら新規就農者確保に努めて頂きたい。

12．第５次農業振興計画策定に対し、若い組合員の意見を取り入れ具体化して取り進めて頂きたい。

13．ＴＰＰに関して、新函館として産地間競争に勝つためにも特色のある作物を作り、ＴＰＰに向けた対策をお願いしたい。

【生産販売部関係】

1．麦を保管する倉庫が不足しており、調整施設も老朽化していることから、整備願いたい。

◇　麦は地域の輪作体系上必要な品目であり、生産者負担を軽減出来る様、調整施設の国費事業化に向け取り進め致します。

2．施設利用事業収支が赤字である内容について、教えて頂きたい。

◇　過去より赤字の為、収支改善に努めて参りましたが、Ｈ26年度は約２億５千万円の赤字です。特に、個選品の施設利用料（10円／ケース）は、合併当初から変わらず、その間に費用は増加し、取扱数量も減少しております。また、全国監査機構より部門別の収支改善を求められており、今後、理事会等で協議頂き見直しを検討します。

3．知内地区でも小麦の面積が１００ｈａ程度になることから、今後も調整作業を厚沢部支店にお願いしたい。

◇　厚沢部支店の調整施設は老朽化と処理能力不足から、他地区の受入も視野に入れ国費事業化に向け、進めております。

4．施設利用料の値上げは、関連する部門の赤字を解消するためでは無く、生産者が妥協出来る程度の値上げに留めるべきである。

◇　関係する会議体で意見を頂き、上げ幅等を検討します。

5．トマト共撰機械の老朽化に伴う更新を検討して頂きたい。（森地区）

◇　第５次中期計画の中で国費事業化に向け検討します。

6．支店別収益（倉庫・施設事業の赤字）を提示して頂きたい。

◇　赤字解消については。これまで精査を重ねた結果、方向性が見えて来ましたので、１月の理事会で個選品の利用料金（現行10円／ケース）改定を協議します。また、第５次中期計画の中で東地区真空予冷施設新設に伴う集出荷施設集約により、携わる職員体制の効率化を図り段階的な収支改善を進めます。尚、Ｈ26年度基幹支店別の収支分析につきましては、過日開

催した理事会で報告しております。

7．H27年産米概算金について、所前米概算金がタンパク6・5以下と6・8以下の格差支払いがなくなった。昨年までは格差支払いがあり、高品質米の生産を目指し努力して来た結果が特Aとなった。格差支払いをなくした理由を教えて頂きたい。

◇ 6・5以下であっても、ホクレンからの概算金は基準品である6・8以下の設定となることから、所前米については6・8以下の括りで支払うこととしました。あくまでも入庫段階の為、最終精算時に支払単価を検討して参ります。

8．米の作況指数が101と発表されているが、地域の実態と大きく違うことを農政事務所に訴えて頂きたい。

◇ 今後も地域の収量データを示しながら、実態に沿った作況指数となる様、強く要請して参ります。

9．ふっくりんこの今後の生産や販売方針について教えて頂きたい。

◇ 米と野菜等のセット販売や米の用途に応じた販売方法を進めます。また、北海道新幹線の開通に伴い、観光客の増加による地場消費の拡大を図ります。今後も生産者の皆様には、ふっくりんこの基準品（タンパク6・8以下）の生産に努めて頂きます様、お願いします。

10．ふっくりんこの基準品（タンパク6・8以下）生産に関する指導があまりない。また、作付不適格地については、きたくりん等を作付するよう、提案願いたい。

◇ 今後も関係機関連携のもと指導を行います。また、基準品確保が困難な地域については、減農薬のきたくりんを作付することによりコスト低減に繋がり、ふっくりんこと同様の所得確保が可能なことから、地域の実態に沿った品種作付を進めます。

11．TPPの合意で飼料用米の輸入が増加すると思われるが影響はないか。

◇ 国では飼料用米の作付けを推進し、主食用米の需要を図っており、飼料用米への助成は単年度で措置されております。このためJAとしては国に対し予算措置の継続を強く訴えて参ります。

12．H30年産から米の生産調整が廃止となり、産地が自主的に行うこととなるが、今後の対策について教えて頂きたい。

◇ 国内需要の動向により、輸出も視野に入れなければなりませんが、国内のシェア拡大も重要と考え、業務用と市販用の販売PR対策を行い需要獲得に向け進めます。

13．北海道における飼料米の取組状況について、教えて頂きたい。

◇ H27年産の面積は2，346haです。（H26：700ha）
全農では全国60万tの目標に対し、実績は50万tであり、販売先は確保されているものの、専用品種の不足等課題も残っており、用途に応じた作付けの検討が必要です。

14．TPP対策として米の輸出について、取組む考えはないのか。

◇ ホクレンでは輸出額100億円を目指し、今年からシンガポールと台湾に駐在員を置き、販路拡大等の市場調査を行っております。JAとしては、ホクレンの取組を活用した中で、前向きに進めて参ります。

15．新幹線開業に伴う農産物の販売・PRについて、今後どのように考えているか。

◇ 新函館北斗駅では商工会を中心に取組んでおり、JAにも協力依頼があることから、各種イベント等で販売やPRに努めます。また、駅周辺に当JAの看板設置も検討しております。

【(有)新はこだて協同関係】

1．配送灯油はクミカンでしか入れられないが、その場で現金で支払う事は出来ないか。

◇ 配送業務は委託の為、現金を受け入れられない事をご理解願います。

2．ガソリンは他支店と価格差があり差別と思っていますし、一緒に出来ないのであれば組合員価格を作って欲しいと要望を出していましたが、正組合員価格を今後も考えるつもりはないのですか。正組合員価格があれば利用者も増えると思いますが。

◇ 地域価格で対応している事を理解して欲しいと思います。昨年と比較して価格差が縮小してきておりますので、ご理解願います。

ふっくりんこが2年連続 特A 獲得！

今年は正式な審査対象に

安定した高い品質の評価

２月２５日、日本穀物検定協会が平成２７年度産米の食味ランキングを発表しました。ふっくりんこは２年連続で最高ランクの「特Ａ」を獲得！安定した品質の高さを証明しました。

審査は、評価員が食べ比べをして「味・香り・粘り」など６項目にわたって評価。基準となる複数産地コシヒカリのブレンド米と比較し、特に良好なものが「特Ａ」に選ばれます。

さらなる挑戦へ

昨年は積極的なＰＲを展開。加工品の新発売、組合長のトップセールス、テレビＣＭ放映など、道南にとどまらない活動となりました。同時に、生産者が売り場に立つなど、地域との繋がりを再確認した年でもありました。

今年は北海道新幹線開業を追い風に、さらなる販売拡大に向けて一層の挑戦をしていきます。これからも「ふっくりんこ」はじめお米の生産・販売にご協力をよろしくお願いします。

JAバンクで定期貯金をしてコンサドーレを応援!!

北海道限定企画

北海道550万人サポーター宣言!

北海道コンサドーレ札幌

応援定期貯金キャンペーン

キャンペーン応募期間 3/1(火)▶5/31(火)

期間中、定期貯金を一定の条件でお預入のお客様に、
抽選で北海道コンサドーレ札幌の応援グッズ等を
全道合計550本プレゼントいたします!

HOKKAIDO Consadole SAPPORO

“北海道コンサドーレ札幌”
総合口座通帳登場!!

3月より発行開始!

※デザインは変更になる場合がございます。

©1996 CONSADOLE

詳しくは最寄りの支店窓口までお問い合わせください。

理事会開催報告

第1回　理事会(定例)議案　日時:平成28年2月26日(金)10:30～　場所:北斗市総合分庁舎

議 案

1号　金融機関への貸付について
2号　信用事業規程の一部変更について
3号　職員就業規則の一部変更について
4号　給与規程の一部変更について
5号　職員への期末手当の支給について
6号　平成27年度決算について
7号　平成27年度剰余金処分（案）について
8号　平成28年度事業計画〈取扱・収支・固定資産処分〉の一部変更について

第14回通常総代会開催のご案内

第１４回通常総代会を下記日程により開催致します。
総代皆様のご出席を賜りますよう宜しくお願い致します。

◇日時：平成28年4月12日（火）午前10時～
◇場所：北斗市総合文化センター「かなでーる」大ホール
◇議案：平成27年度事業報告　他

総代の役割とは…

ＪＡの運営は組合員全員の総意に基づいて行われなければなりません。そのためにＪＡとしての統一した意思を決定する場が「総代会」です。

各地域より選出された「総代」は、総代会においてＪＡの運営方針などについて議論を行い、議決権を行使します。正組合員の中から選出された総代は、いわば日本における国会議員のような存在。

総代は、組合員の代表としてＪＡの将来を決定する大切な役割を担っています。

総代は組合員のみなさんの代表です。総代会においてJAの運営方針などを決定します。

共済推進へ向け士気を高める
平成28年度 LA共済推進決起大会

道南農業会館で２月１０日、「ＬＡ共済推進決起大会」が開かれた。ＬＡ２８名・役職員・共済連職員が集まり、共済推進への思いを高めた。

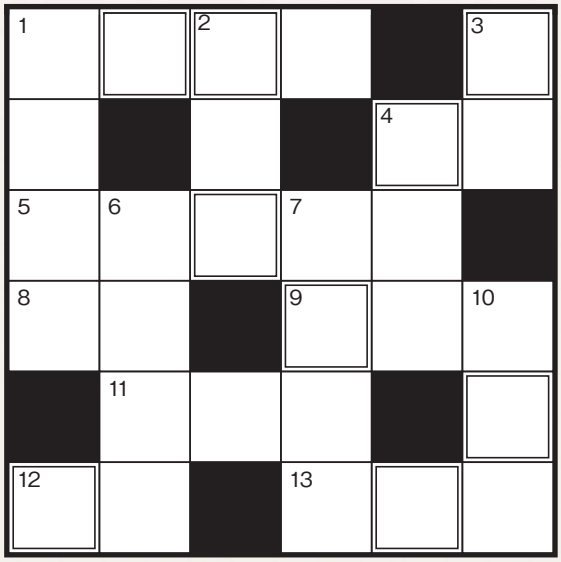
はじめに畠山良一組合長が「厳しい環境だが、それをチャンスにできるようにＬＡの皆さんに期待しています」と挨拶。続いて「事業推進方針」として「既契約者世帯への３Ｑ訪問」などの取組課題を確認した。次に、特に良い成績をあげた厚沢部地区の大瀧勇太職員ら４名が優績ＬＡとして表彰された。

その後、七飯支店の青柳悟職員が代表して「ＬＡ全員全力でチャレンジしていきます」と決意表明。出席者全員でガンバロー三唱を行った。終わりに輪島桂専務が「お客様ひとりひとりの満足度を高められるような推進に取り組んで下さい」と挨拶し、大会を締めくくった。

優績LA

組合長賞	厚沢部支店　大瀧　勇太　職員	専務賞	厚沢部支店　小林　鷹　職員
共済連札幌支所長賞	森　支　店　高瀬　彰太　職員	常務賞	八雲支店　西村　竜太　職員

みんなのまるめ町広場



キーワードヒント　今月の大きな話題となりそうです。

プレゼント　クイズの正解者の中から抽選で3名様に、以下の3種類からお好きな商品を3袋をお送りします。希望のプレゼントをご記入ください。

農協ラーメン（1袋2食入り）

農協のトマトカレー（1袋1食入り）

はこだて産本格いかめし（1袋2杯入り）

あて先　クイズ&投稿は、郵送またはFAX、メール、ホームページのメールフォームで受け付けております。

〒041-1201 北斗市本町1丁目1番21号
JA新はこだて企画室　FAX:0138-77-5566
E-mailアドレス　shinya.toda@ja-shinhakodate.com

⬇応募用紙はこちら（切り取ってハガキにそのまま貼ってね。）

応募締め切り　3月18日（金）（当日消印有効）

※下記応募用紙には必ず全て記入して下さい。※コメントのないものは無効とさせて頂きます。

キーワード

ご希望のプレゼント　※下記のいずれか1つに○を付けて下さい

農協ラーメン・農協トマトカレー・函館産いかめし

住所
〒　　－

氏名　　年齢　　TEL
ペンネーム　　才　　－　　－

組合区分　正組合員・准組合員・その他　※○を付けて下さい

コメント ※広報誌へのご感想やご意見・ご要望、身近なできごとなどについて教えてください。

キリトリ線

クロスワードクイズ

二重マスの文字を並べてできる言葉は何でしょうか？
中には今月号のえすぽわーるにヒントのカギがあるかも。

■ タテのカギ

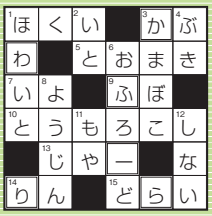
1 落部青年部が自慢の一芸「○○○○囃子」。
2 子供も買いやすいおやつです。
3 ボックス。
4 褒めたときにあげるお金や物のこと。
6 アメリカの有名なミュージカル「雨に○○○○」。
7 褒められない、「邪」な考え…
この漢字の読み方は?
10 サツキとメイ。ジブリの名作「となりの○○○」。

■ ヨコのカギ

1 ○○○○と答え。
4 ムジュンの語源になったのは、○○と盾。
5 俗にいう呼び方。
8 今月ついに最終回のドラマ「あさが○○」。
9 童話「白雪姫」に登場する七人の…
11 ○○○線を引き継ぐ、道南いさりび鉄道。
12 ニワトリの羽の根元にある肉。○○先、○○元。
13 ミクロの反対。

2月号のこたえ

カ	リ	フ	ラ	ワ	ー



クイズ当選者
八雲町熊石　トヨさん
七飯町　恵美子さん
七飯町　Qちゃんさん

読者の声

八雲町熊石　トヨさん
トピックスで地域の農業情報がとても感動的だった。「桧山南部アスパラ生産3億円突破」は特に印象に残った。
♣組合員さんの長年の努力、本当に素晴らしいです。

せたな町　玲子さん
いつも楽しく読ませていただいています。
♣ありがとうございます。読者からのお言葉が励みになります！

知内町　まちゃこさん
フェイスブックチェックしてます。更新楽しみにしています。
♣ありがとうございます。気に入った投稿には「いいね」をしてもらえると嬉しいです。

北斗市　おていちゃんさん
カリフラワー、冬が旬とは知らなかった!?　びっくりポンや新幹線開業おめでとう♡
♣新幹線開業、いよいよです！道南全域で盛り上げていきたいですね。

七飯町　恵美子さん
後継者の記事とても楽しみです。心強いかぎりです。
♣取材させていただいた皆さん、将来のことを真剣に考えている方ばかりで、頭が下がる思いです。

七飯町　Qちゃんさん
クロスワードが頭の体操になって大変良いです。
♣来月から新しいクイズが始まります。ぜひそちらも挑戦してみてください。

八雲町　カズPさん
いつも楽しく拝読しています。これからもステキな記事を掲載して下さい。
♣いつもありがとうございます。これからもより良い誌面を目指してがんばります!!

広げよう！地産地食図鑑

★２４品目★
霜降り「はこだて和牛」とパクチーサラダ

霜降り「はこだて和牛」とパクチーサラダ 3,240円（税込）お味噌汁・木古内のお米・お漬け物付き。

道南食材を生かした健康志向の食べ方を提供

今月は、木古内町の「はこだて和牛」をご紹介します。ご協力してくれたのは、「世界の料理人１０００人」に選ばれたシェフ・奥田政行さんが監修するレストラン「どうなんde's Ocuda Spirits」の飯田晃久シェフです。

はこだて和牛は、赤身が柔らかく、肉の味がしっかりしているのが特徴。「パクチーと食べることによって、牛肉の脂をまろやかにし、噛むたびに味がまとまってきます」と飯田シェフ。新鮮な野菜と一緒に食べるスタイルは、健康にも良く、注目が集まっています。

飯田シェフは「地元の方はもちろん、地方の方にもはこだて和牛を味わってほしい。和牛とパクチーの組み合わせを是非味わって下さい」と笑顔で話します。

のびのびと過ごす牛たち

「ご来店前に facebookやお電話で情報確認を!」と飯田シェフ

どうなんde's Ocuda Spirits
住所：木古内町字本町 338-14（道の駅「みそぎの郷きこない」内）
ＴＥＬ：01392-6-7210　定休日：不定休
営業時間：ランチ　11：30～14：30（ラストオーダー 14：00）
ディナー 17：30～21：00（ラストオーダー 20：45）

編集後記

「道南を農す」でお邪魔した加藤牧場さんは、ネコの一家を飼っています。家族の一員としてネズミ取りに大活躍とのこと。牧場で搾ったミルクを飲む、なんとも贅沢な食生活を送っています。

加藤さんの人柄を反映してか人懐こく、初対面の私にも撫でさせてくれました。ネコ好きの私は、ついつい30枚ほどシャッターを切ってしまいました。

ネズミ対策などでネコを飼っている方も多いと思います。もし良かったら、取材のときに写真を撮らせてください。（真）

えすぽわーる新函館
第163号　平成28年3月10日発行
発　行／新函館農業協同組合
住　所／〒041-1201　北斗市本町1丁目1番21号（北斗市総合分庁舎隣）
電　話／0138-77-5555（代表）
ＦＡＸ／0138-77-5566
編　集／企画室
印　刷／有限会社　三和印刷

JA新はこだて facebook
JA新はこだてホームページからもご覧いただけます。
こちらも、よろしくお願いします。

まるめ郎アルバム

氷でできたジャンボすべり台
楽しそう！
意外とスピード出るね。笑

「えすぽわーる」とはフランス語で「希望」という意味。「えすぽわーる新函館が読者の皆さんに希望を届ける広報誌になって欲しい」という願いが込められています。